

卒業論文

地域社会における子どもの「居場所」に関する社会学的考察

—福岡市東区箱崎「きんしゃいきやんぱす」の事例から、“ナナメの関係”に着目して—

九州大学文学部 社会学・地域福祉社会学専攻

平成 21 年 1 月

1 頁=40 字×30 行



要旨 かつての子ども「居場所」であった駄菓子屋や路地裏、そこはかつて子どもが「遊ぶ」という第一の目的を達成する場であると共に、それに付随するように、子どもが地域のオジサン・オバサンまたは地域のアニキ・アネキと多様な社会的関係を、いわば“ナナメの関係”を結べる場でもあった。しかし、近年の日本における都市化・過疎化による子どもの成育環境の変化、および少子化の流れの中で、子どもが“ナナメの関係”を繋いでいけるような地域における「居場所」は崩壊してしまったと述べている。本論文では、まず、子どもにとっての“ナナメの関係”とは一体何なのか、その実態を探るとともに、そこでの相互行為の結果、産出される社会的機能について（主には＜社会化＞について）、商店街の中で子どもの日常的な遊び場・居場所を提供する「きんしゃいキャンパス」の事例から明らかにする。その上で、さらにそうした社会的機能が最終的に子どもの「居場所」の獲得・形成にどのような影響を及ぼしているのかについて考察することによって、“ナナメの関係”という新たな側面から、子どもの「居場所」づくりの意義について考察したい。

—目 次—

はじめに	1
第一章 地域社会における子どもの「居場所」とその崩壊	4
(1) 子どもの「居場所」問題の社会的背景	/4
(2) 子どもの「居場所」とは	/6
(3) 地域社会における子どもの「居場所」とは	/7
(4) 指摘される“ナナメの関係”と本論文の位置づけ	/10
第二章 「きんしゃいきやんぱす」という「居場所」	14
第一節 「きんしゃい通り」とは	14
第二節 「きんしゃいきやんぱす」とは	16
(1) きんきやんのはじまり	/16
(2) きんきやんの活動	/17
(2) - 1. 「日常性」	/17
(2) - 2. 「遊び」	/18
(2) - 3. 「ナナメの関係性」	/20
(3) 「居場所」としての「きんしゃいきやんぱす」	/22
第三章 “ナナメの関係” からみる「きんしゃいきやんぱす」	23
第一節 調査概要	23
(1) 調査目的	/23
(2) 調査対象	/23
(3) 調査手法（具体的手順）	/23
第二節 調査結果～ナナメの関係性とそこにおける具体的相互行為の実際	24
(1) ナナメの関係の多様性～3タイプへの分類	/24
(2) ナナメの関係性における相互行為のタイプ別分類	/27
(2) - 1. 第一の社会的アニキ・アネキ関係	/27
(2) - 2. 第二の社会的アニキ・アネキ関係	/32
(2) - 3. 社会的オジサン・オバサン関係	/38

第三節	考察～ナナメの関係性における相互行為の社会的機能	43
3-1.	第一の社会的アニキ・アネキ関係より	44
3-2.	第二の社会的アニキ・アネキ関係より	48
3-3.	社会的オジサン・オバサン関係より	49
第四節	考察～〈社会化〉のプロセスの中で－「居場所」を獲得する子どもの姿	54
第四章	“ナナメの関係”からみる「居場所」	60
	おわりに	65
	参考文献・資料一覧	
	謝辞	